

中部地方整備局事業評価監視委員会（令和2年度第3回）

議 事 概 要

1. 日 時 令和2年11月30日（金）10:00～12:00

2. 場 所 KKRホテル名古屋 3階 芙蓉の間

3. 出席者

○事業評価監視委員会委員

沢田委員長、富永副委員長、水谷委員、高瀬委員、原島委員、  
朝日委員、吉永委員、松本委員、今泉委員

○中部地方整備局

堀田局長、加藤副局長、上野副局長、企画部長、建政部長、道路部長、  
港湾空港部長、営繕部長、用地部長、河川調査官

4. 議 事

1) 対象事業の説明・審議

(再評価)

【道路事業】

一般国道1号 藤枝バイパス  
一般国道42号 熊野尾鷲道路（Ⅱ期）  
一般国道42号 熊野道路  
一般国道42号 紀宝熊野道路  
一般国道41号 石浦バイパス  
一般国道158号 中部縦貫自動車道 高山清見道路

2) 報告

【河川事業】

天竜川直轄河川改修事業  
鈴鹿川直轄河川改修事業  
狩野川総合水系環境整備事業  
天竜川総合水系環境整備事業  
矢作川総合水系環境整備事業

## 5. 配布資料

- ・ 委員会開催資料（議事次第、委員名簿、出席者名簿、配席図、配付資料一覧）
- ・ 資料1 再評価に係る県知事等意見
- ・ 資料2 対応方針一覧表
- ・ 資料3 一括審議案件に対する意見等について
- ・ 資料4 一般国道1号 藤枝バイパス 説明資料
- ・ 資料5 一般国道42号 熊野尾鷲道路（Ⅱ期）  
一般国道42号 熊野道路  
一般国道42号 紀宝熊野道路 説明資料
- ・ 資料6 一般国道41号 石浦バイパス 説明資料
- ・ 資料7 一般国道158号 中部縦貫自動車道 高山清見道路 説明資料
- ・ 資料8 天竜川直轄河川改修事業 報告資料
- ・ 資料9 鈴鹿川直轄河川改修事業 報告資料
- ・ 資料10 狩野川総合水系環境整備事業 報告資料
- ・ 資料11 天竜川総合水系環境整備事業 報告資料
- ・ 資料12 矢作川総合水系環境整備事業 報告資料
- ・ 資料13 再評価に係る資料【道路事業】
- ・ 資料14 報告に係る資料【河川事業】

## 6. 主な審議結果等

1) 再評価対応方針（原案）については以下のとおりとする。

### 【道路事業】

一般国道1号 藤枝バイパス	・・・了承
一般国道42号 熊野尾鷲道路（Ⅱ期）	・・・了承
一般国道42号 熊野道路	・・・了承
一般国道42号 紀宝熊野道路	・・・了承
一般国道41号 石浦バイパス	・・・了承
一般国道158号 中部縦貫自動車道 高山清見道路	・・・了承

2) 委員会当日に委員より出された意見・質問及び回答

項目	意見・質問	回答
<p>(重点審議) 一般国道1号 藤枝バイパス</p>	<p>(資料4)9ページの要対策土の事業地内処理は、要対策土が流出しないような処理がされているという理解でよいか。</p>	<p>ご意見の通りである。</p>
	<p>(資料4)9ページについて、I期線のトンネル掘削の記録から、今回の要対策土の処理を予測できなかったのか。</p>	<p>I期線整備時(昭和56年開通)と現在で重金属への考え方が異なっており、I期線整備時は、調査を実施していないため分からなかった。</p>
	<p>要対策土の事業地内処理の他に、コスト縮減の取り組みがあれば教えてほしい。</p> <p>その他のコスト縮減の取り組みについても今後、検討してほしい。</p> <p>(資料4)3ページのサグ部の渋滞について、4車線化により、サグ部自体が解消されるわけではないが、サグ部での渋滞対策を考えているか。</p> <p>工程に関する課題等があれば教えてほしい。</p>	<p>最新の要領、知見、技術等により工法比較を行い、最適な設計を実施しているため、現在の構造がそのコスト縮減の結果となる。</p> <p>今後検討していく。</p> <p>4車線化による交通容量の確保により、渋滞が緩和されると考えているため、サグ部の追加対策等は現時点では考えていない。</p> <p>潮トンネルで重金属が確認されたことから、他のトンネルでも土質調査が必要になり、調査のために発生土の仮置きが必要となった。しかし、仮置きスペースの制約により、仮置可能土量が制限され、6トンネルを並行して掘削する計画から1トンネルごとの掘削に見直しを行っており、事業期間を延伸している。</p>
<p>(重点審議) 一般国道42号 熊野尾鷲道路 (II期)</p>	<p>(資料5)3ページの避難路の設置基準はあるか。</p> <p>避難路は自治体のハザードマップ等に記載されているか。</p>	<p>設置基準はなく、地域の必要性に応じて設置をしている。</p> <p>ハザードマップに記載し、周知を図っている。</p>
<p>一般国道42号 熊野道路 一般国道42号</p>	<p>今後、増額する必要が生じた場合に、B/Cが1.0を下回ることが懸念されるが、どのように</p>	<p>紀勢線は、災害に強い道路機能の確保、救急医療活動の支援等を目的として整備を進めており、地域を支</p>

項目	意見・質問	回答
紀宝熊野道路	考えているか。	える重要な路線であることから、便益換算できない効果も大きいと考えている。今後、増額が生じた場合は、そのような効果も丁寧に説明させていただいた上で、適切に事業評価を行っていく。
	<p>(資料5)19ページの3便益以外の定性的な効果や、感度分析の下振れにより、B/Cが1.0を下回ることにについて、説明をしていく必要があるのではないか。</p> <p>避難路設置による増額は無いのか。また、地域からの設置要望は把握しているのか。</p> <p>緊急車両が管理用出入口を使用することを想定しているか。</p>	<p>定性的な効果の説明方法については、今後検討していく。感度分析については、真値としては1.1であり、今後、下振れした場合は、適切に事業評価を行っていく。</p> <p>避難路は、法面に階段を設置する程度の構造であるため、事業費に大きく影響するものではない。避難路の設置箇所については、地域の意見を聞きながら検討している。</p> <p>想定をしている。</p>
	(資料5)7ページの紀南病院は、ハザードマップの浸水区域外に位置するという点でよいか。	紀勢道から紀南病院までのアクセス道を含めて、浸水区域外となる。
	(一括審議) 一般国道158号 中部縦貫自動車道 高山清見道路	(資料7)7ページのトンネル設計における建築限界の見直しについて、既存トンネルの見直しは考えているのか。
事業の進捗及び見込みの視点で、開通見込みは記載できないか。		用地取得や予算の状況を踏まえ、開通見通しが確実になった段階で、記載することになっている。
近年、雨の降り方が強くなっていることから、盛土箇所の排水対策、設計施工を確実に実施して頂きたい。		了解した。
(資料7)6ページの事業費見直しについて、用地交渉の状況		高山市の事業計画に合わせて、残土受入期間等の調整を行っていた

項目	意見・質問	回答
	を踏まえながら、残土受入地の調整を進めることができなかつたのか。	が、自治体の計画もあり、本事業の用地難航を理由に調整することはできない状況であった。
<p>(報告) 天竜川直轄河川改修事業</p> <p>鈴鹿川直轄河川改修事業</p>	<p>(資料8) 2ページの危機管理型ハード対策で、対策完了の用途を平成32年度としている理由は何か。</p> <p>事業箇所の優先順位はどのように決めているのか。</p>	<p>当初予定において、概ね5年程度で完了させるということである。元号は、令和2年度に修正する。</p> <p>上下流バランスを崩さない前提で、地域の意見など総合的に判断して進めている。</p>
<p>(報告) 狩野川総合水系環境整備事業</p> <p>天竜川総合水系環境整備事業</p> <p>矢作川総合水系環境整備事業</p>	<p>(資料11) 4ページで、継続的に礫河原の再生に努めなければ、河川の安全な利用と共存ができないと思うが、どのように考えているか。</p> <p>河川内で経済活動を行うことにより、洪水や氾濫等の水害リスクが生じるが、どのように評価しているか。</p>	<p>再生箇所の維持管理が重要である。水際の切り下げによる樹林化の抑制や河川水辺の国勢調査のデータを活用した管理などを考えている。</p> <p>河川環境整備は、治水への影響が生じない範囲で事業を実施しており、水害リスクは評価していない。</p>